

整備事例集 vol.14

令和元年度整備事例集



私たちのまちを
私たちでつくる
きっとまちが好きになる



掲載事例

- ① 歴史と環境をテーマに安心して楽しめる里海公園づくり(金沢区)
 - ② 鶴見の多文化・多世代の共創拠点づくり まちのリビング(鶴見区)
 - ③ 世代を超えた集いの場にするための拠点づくり(南区)
 - ④ 太陽とコミュニティで耕すもろおかエコステーション(港北区)
- ④は平成29年度整備

ふ-しん【普請】「普く請う(あまねくこう)」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。

「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民の皆さんが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足感を高めることにつながっていきます。「まち普請」には、市民に身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきたいという願いが込められています。

歴史と環境をテーマに 安心して楽しめる 里海公園づくり(金沢区)

水辺のウッドデッキが地域の新たな舞台へと



水辺に向かって設置されたウッドデッキ

並木団地の真ん中にある「ふなだまり」は、池のように見えますが、海につながっている入江です。そこにあるウッドデッキでは親子がお弁当を食ったり、おしゃべりをしたり、みんなが思い思いに過ごしています。人を引き付ける気持ちの良いこの「ふなだまり」は、富岡八幡宮の祇園舟神事を行う非常に由緒ある場所でもあります。しかし、地形的に海と住宅地から流れてくるごみが溜まりやすく、以前は大人が子どもたちに「汚くて、危険だから近寄ってはダメ」と言うような場でした。

並木団地に建設当初(昭和40年代)から住む高島さんは、定期的に水辺のごみ拾いをしていました。水面に浮かぶごみの回収は難しく、限界を感じていました。そんなある日、SUP(サップ)※で水面のごみ拾いをしている人を見かけます。それが富岡に住む赤澤さんでした。彼らは「ふなだまり」をもっと面白い場にしたと意気投合し、「富岡・並木ふなだまりgionbune公園愛護



近隣の小学生にふなだまりについてレクチャー。デッキが青空教室に

会」を結成します。「陸と海を同時に清掃しないと、この公園はきれいにならない」と考え、自転車やSUPを使って楽しみながら新しいスタイルの清掃活動を始めました。

40代の赤澤さんはアイデアマンで、「ふなだまりをもっとアピールするには拠点が必要だ」と、地域のボート小屋を改修するために、ヨコハマ市民まち普請事業に応募することを提案します。高島さんやメンバーの松尾さんたちは、そんな赤澤さんと周りの若い世代の熱意に押され、まち普請へ挑戦することを決めました。

無事に二次コンテストは通過したものの、権利上の問題によりボート小屋を使用することができなくなってしまうが、諦めずに、水辺にウッドデッキをつくる内容に提案を練り直しました。整備場所は変わりましたが、水辺の価値を高めることが評価され、見事二次コンテストを通過することができました。

しかし、いざ整備を始めようとした矢先、中心メンバーの赤澤さんが急逝されます。メンバーは大変ショックを受け、一時は整備をやめることも検討しますが、高島さん、松尾さんが中心となり赤澤さんの遺志を継ぐことを決意し、なんと令和2年2月にウッドデッキを完成させることができました。

コロナ禍により予定していたイベントはすべて中止となり、積極的なPRができませんでしたが、ウッドデッキを利用する人たちは徐々に増えていきます。ふらっと立ち寄る人以外にも、ヨガで使われたり、フラダンスグループが練習したり、小学生の野外教室など様々な使い道が生まれています。最近ではテレビ番組のロケ地となったり、アートグループから「イベントをしたい」という申し込みがあるなど、想像していたような幅広い人たちに知られるようになってきました。ウッドデッキがふなだ



日常的に太極拳やフラダンスの練習場所にもなっている

まりの良さを引き出し始めています。
 愛護会メンバーで並木団地で育った二見さんは、並木団地には様々な特技や知識のある面白い人がたくさんいるのに、その人たちと交流する機会がないことをもったいないと感じていました。それが、ウッドデッキという舞台ができたことで、地域の活動が次第に見えてきたのです。「これまで新陳代謝がでなかつたけど、ウッドデッキによって地域に意識が向いた人たちと『この町に住んでよかったな』と思う企画をやっけていきたい」。二見さんの言葉には、夢と可能性があふれています。

高島さん、松尾さんは「とりあえず、5年間はやってみますよ」と若い世代をバックアップする気持ちです。「水辺は



**歴史と環境をテーマに安心して楽しめる
 里海公園づくり(金沢区)**

整備主体：富岡並木ふなだまりgionbune
 公園愛護会
 整備場所：金沢区富岡東4丁目13番
 富岡並木ふなだまり公園内
 整備内容：ウッドデッキ
 竣工時期：令和2年2月

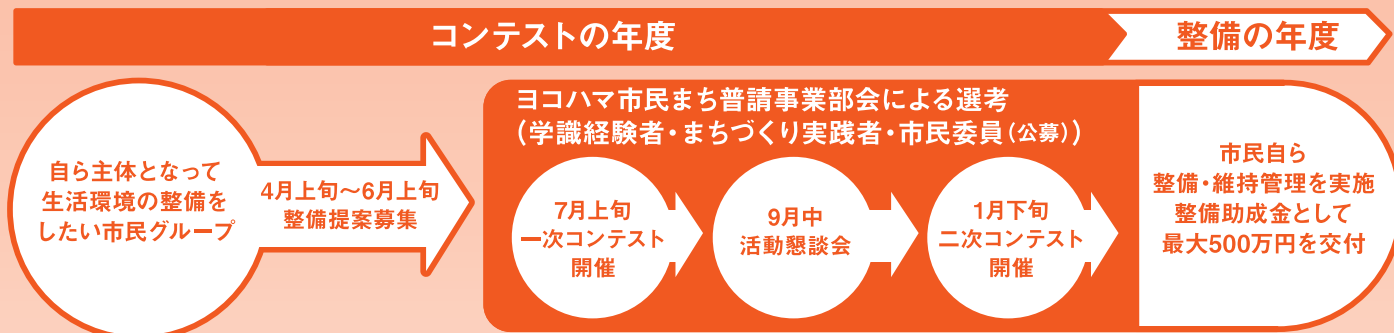
パワーがある。だからどう利用するかを考える人たちと共にまちをつくっていききたい。それを可能にしてくれたのは、まち普請だと思えます」とまちの未来を見つめています。

苦労があつたからこそ光が見えてきた。ふなだまりの今後に注目しましょう。

※1: Stand Up Paddleboard(スタンドアップパドルボード)の略称。ボードの上に立ち、パドルを使って水面を漕いで進んでいくウォーターアクティビティ。

「ヨコハマ市民まち普請事業」とは

市民の発意とアイデアによる地域課題の解決や魅力向上に資する施設(ハード)を、身近な地域の公共空間や私有地などに整備する提案を募集し、二段階の公開コンテストにより選考された提案に対して次年度に最大500万円の整備助成金等を交付する事業です。



横浜市地域まちづくり推進委員会

ヨコハマ市民まち普請事業部会委員(平成30年度選考委員) ※所属は平成30年度時点

- 岡本 溢子 NPO法人さくら茶屋にししば理事長(まちづくり・市民活動)
- 男澤 誠 市民(公募委員)
- 河上 牧子 明治大学地域ガバナンス研究所客員研究員(都市政策)
- 川原 晋 首都大学東京*都市環境学部教授(市民主体の地域運営・まちづくり市民事業) ※現在は東京都立大学
- 塩入 廣中 市民(公募委員)
- 菅 博嗣 (株)あいランドスケープ研究所代表取締役(花とみどり・公園緑地)
- 杉崎 和久 法政大学法学部教授(公共政策)
- 鈴木 やよい NPO法人横浜市民アクト理事(まちづくり)



ヨコハマ市民まち普請事業

整備事例集 vol.14

令和元年度整備事例集

- 発行 令和3年2月
横浜市都市整備局地域まちづくり課
〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10 TEL 045-671-2679 FAX 045-663-8641
- 編集・デザイン 横浜市住宅供給公社
- デザイン・印刷 山陽印刷株式会社



「まち普請事業」についてはホームページをご覧ください。
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/suishin/machibushin/>

Facebook「ヨコハマ市民まち普請ひろば」もご覧ください。
<https://www.facebook.com/yokohama.machibushin>

Webで検索

Webで検索